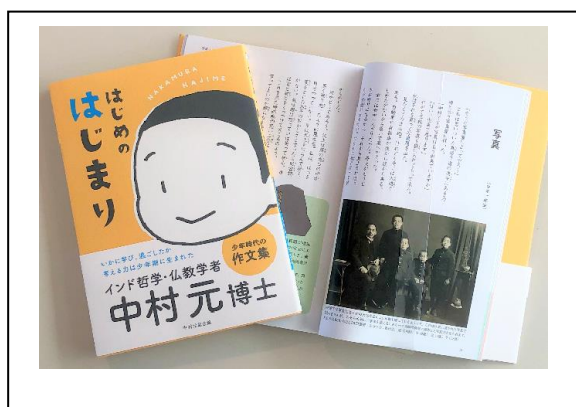


寄附者設定テーマ事業 事業報告シート

団体名	特定非営利活動法人 中村元記念館東洋思想文化研究所
テーマ名	日本労働組合総連合会 島根県連合会寄附 子ども・子育てのための新型コロナウイルス感染症対応事業
事業名	東洋哲学の世界的権威「中村元博士」少年時代の作文集編纂事業
事業費(うち助成金額)	1,564,181円 (1,200,000 円)
ネーミングライツ(該当があれば)	日本労働組合総連合会 島根県連合会寄附



■事業目的

中村元記念館には、中村元博士の残された多数の蔵書のほか、膨大な原稿や資料が保管されている。資料の中には、中村博士が哲学者として世に出る以前(中学校や、高等学校時代)に書かれた作文や日記も多数有り、それらの文章には、中学入学直後に大病を患い、必ずしも思うような学校生活を送ることができなかった中村博士が、その時々悩み、苦しんだこと、それに対してどう向き合っていたかなどがつづられた作文などもある。後に世界的な学者となる中村元少年の成長の過程を作文集として出版し、コロナウイルス感染拡大のために、これからの未来に悲観的になっている子供たちにエールを送ることを目的とする。

■事業内容

現在、調査を終えて登録済みの作文・日記のほか、未探査の資料の中に、作文や日記など小・中・高等学校時代に関する資料がないか、再調査をおこない本に掲載する資料の選定を行った。

作文集の編纂にあたっては、作文が書かれた大正・昭和の時代のことばを現代の子どもが読めるようにするために、仮名遣いを改め、難しい言葉には注釈をつけた。また、当時の時代背景も可能な限り解説を行い、イラストや図、写真などを多く使い子供たちに興味を持って読んでもらえる工夫をした。

また、作文集は多くの子どもたちに読んでもらえるように県内の小・中・高等学校と図書館に寄贈した。

作文集の編纂に関連して、掲載した作文や、絵画・写真などの資料の実物展示、さらに日記などに記載された読書記録に基づき、博士の蔵書を展示する企画展を行った。企画展は、記念館での開催のほか、八束公民館でも行った。

■事業成果と今後の展望

中村元博士の少年時代の作文・日記を書籍として刊行し、島根県内の小・中・高等学校、図書館に配布することができた。また、作文集刊行に関連した企画展も行うことができ、さらに八束公民館での企画展も実施することができた。

博士の作文や日記は、これまでの展示では、なかなか内容をじっくり読んでもらうことができなかったが、書籍にすることにより、後の世界的権威となられた中村元博士の原点をじっくり読んでいただくことが可能になった。今後は、この書籍を活用した講義や、学芸員による出張講座などを行い、子供たちに島根県の偉人である中村元博士のことを知っていただくための活動に結び付けていきたいと考えている。

また、今回の作文集編纂にあたって、さらに資料調査を進めることができたので、今後は新たな資料の公開や活用を行って行きたい。専門的な研究者のみならず、未来の研究者である子供たちにとっても中村博士の目指された学問に興味を持っていただけるよう活動を続けていきたいと考えている。